



## 第15回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

# もやし 18円

兵庫県・雲雀丘学園高等学校 2年 武田 薫水

もやしという野菜はよくできた野菜であるように思う。ミネラルやアミノ酸などの栄養素が豊富に含まれている。たくさんの料理に使えるし、1袋でかなりお腹いっぱいになる。そんなもやしは、私の家の近くのスーパーマーケットではわずか30円足らずで買ってしまう。たいていのもやしは200グラム入りなので100グラムあたりにすると15円にもならない。キャベツだと1玉およそ240円、600グラム程度なので100グラムあたりおよそ40円ほどで、もやしの安さがよくわかる。もやしの安さは非常に家計にとってありがたいもので、小学生、中学生、高校生の子供がいる私の家では毎日のように食卓に現れる野菜だ。もやしはセールにもかかるとさらに価格を下げる。でかでかと目立つ大きな字で安さを強調する値札を掲げられ、野菜売り場に大量に積み上げられたもやしの袋を見て私は、このスーパーマーケットはその日、もやしだけでいくらの利益が出たのだろうかという疑問に思った。

結論から述べると、スーパーマーケットにおいて、もやし自体はほとんど儲からないようだ。スーパーマーケットにとってもやしは安さを演出しやすい商品で、印象付けのために安く売られているのだという。

もともと低価格であるもやしは、少しの値引きでお得感を出すことができる。東京ではもやしはだいたい18円で買えると、以前父に言われた。それに対して、私が暮らす大阪では28円ほどである。私はそれを聞いた時、大阪ではかなり高いような印象を受けた。だが、東京と大阪での価格差はたった10円だ。同じバターが東京では390円、大阪では400円だと聞いても同じ10円の価格差なのにもやしほど大阪の方が高いようには感じられない。

その18円のもやしは、10円にも満たない値引きでさらに半額にできる。値下げ幅が少なく済むため、店はもやしを大幅に値引いて広告に載せ、消費者にその店の安さをアピールすることができる。安いという印象を得た消費者が

もやし以外の商品を買えば利益は十分に出るため、もやしは非常に安い値段で売られ、他の店との競争でどんどん安くされていく。店によってはもやしの売り上げが赤字になることもあるほど安くし、集客に繋げる<sup>つな</sup>そうだ。

しかし一方で、生産者である農家が近年窮境に陥っているというニュースを最近見た。特にこの10年あたりで、気象条件による不作や人件費上昇などによって中国から輸入している豆の価格が高騰し、さらに最低賃金の上昇や輸送費の上昇などが重なり、生産コストが増した。だが、屋内で栽培され、安定的に供給されるもやしは、私たち消費者にとって安いのが当たり前のこととなっている。

もちろん生産者は、機械化や大規模な工場にすることでコスト増加分を賄おうと努力しているが、それでも限界はある。コスト増を価格に転嫁しようとしても、なるべく安く仕入れ、安く売りたい小売りへの値上げ交渉は困難だ。小売店と消費者が安さを追求し続けた結果、競争の過熱によって、現在のもやしの価格は、物価が2017年現在のおよそ3分の2だった40年前よりも安くなってしまった。その結果として、2009年には全国で230社を超えていたもやしの生産者は、100社以上が廃業に追い込まれ、現在130社以下まで減ってしまった。

もやし生産者は、今後生産を続けていけるようにするための店頭での適正価格の「最低ライン」を40円としているそう。今よりたった10円、20円ほどの値上げ。他の野菜では天候不順や季節によってそれくらいの変動は日常茶飯事であり、大幅に値上げされたと感じる人は少ないだろう。しかし、もやしは供給が安定していることから値下げはあれども値上げはなく、元の価格が安すぎて、少しの値上げでも、値下げの時のように値上げ幅が大きすぎるように思ってしまう人も多いだろう。だが、「最低ライン」に対して半分からせいぜい4分の3で売られる生活は、当然経済的に厳しく、極端な低価格で売られることでもやしの価値がないかのように思われ、心を痛める生産者もいるだろう。もし自分の業種でモノやサービスが今実際に販売されている価格の半額が一般的な価格となり、そこをさらに半分にして本来の4分の1まで落として、やっと「安いな」と思われるようになったらどうだろうか。もやしはひとつひとつあたりが安価で、本来の価値に見合わない価格で販売されているということが見逃されやすくなっているだけではないだろうか。もやしは確かに屋内の大規

模な工場で大量生産され、安定供給が見込めるという面で他の野菜とは異なるかも知れない。もやしは栽培期間が短かく、ブランド化することが難しく、価格を上げづらい。しかし、実際の作業は機械が担当していることが多かろうと、パッケージに記載された農家、会社に従事する人間であることは他の野菜とそんなに変わらないのである。そこで働く人は、他の農業従事者と同様に、売り上げから生産コストを引いて利益を得るのだし、やりがい無しにずっと働けるわけではない。より安いものがほしい、という意見は何も間違った点はない。しかし安さを追求しすぎて、生産者が今後生産を続けることが困難になるほどまで低い価格を望むのは、果たしてよいことなのだろうか。生産者は生産を続けるための最低価格を示していて、なるべく安く安定した供給を望んでいる。決して値段を釣り上げたいとか、生産を不安定にしたいということではない。1袋30円に満たない、工場で大量生産されたもやし。それを作るためには自分と同じような人間がかかわっていることを忘れてはいけない。もし、自分がかかわる製品がもやしのように適正価格の半分で売られていたら。そしてそれでもまだ値下げされていったら。40年前、もやしの価格は少なくとも現在より適正価格に近かったはずだ。行き過ぎた価格競争を容認していたら、いつか自分が製造・提供するモノやサービスが、もやし・もやし生産者と同じような運命をたどるかもしれない。私は、もやしがスーパーマーケットではあまり利益にならず、客寄せに使われると知った後で、もやし生産者が苦境にあるというニュースを見た。もしも、ニュースを見る前にスーパーマーケットでのもやしの安売りのからくりについて知らなかったら、ただ単に大変そうだな、値上げすればいいのに、という感想しか持てなかつたら、野菜売り場のもやしは、私に物事をたくさんの視点から捉えることの重要さと、自分が普段置かれている立場からしか見ないことの危うさを教えてくれた。当然だと思っている身近なことが、本当に適正に成り立っているかということ、多面的に考えて生活するようにしたい。

〈参考文献〉

- BuzzFeed Japan 「もやしの価格『安すぎる』生産者が悲鳴『1袋1円』で売られるからくり」  
閲覧日 2017年8月22日  
URL [https://www.buzzfeed.com/jp/harunayamazaki/moyashi?utm\\_term=.eoQBmeWPI#.nsGp06Rb8](https://www.buzzfeed.com/jp/harunayamazaki/moyashi?utm_term=.eoQBmeWPI#.nsGp06Rb8)
- もやし生産者協会 「もやしの栄養」 閲覧日 2017年8月22日  
URL <http://www.moyashi.or.jp/nutrition/>

